



海上の森 幼児森林体験フィールドの概要



ねらい

幼児(3~6歳)が、原体験として五感を使った森林体験活動を行うことで、将来にわたって森林を守り育てる人材を育てるとともに、幼児教育の場として森林の新たな利用方法を普及啓発することを目的として整備を行いました。

フィールドの特徴

「海上の森」の入口部分にある約1.2ヘクタールの雑木林を、極力そのままの形で利用し、常緑樹等の間伐により幼児が快適に活動できる明るい林内となっています。また、伐採した木材等を遊具として利用し、子どもが遊びを通して森林を体感できる工夫をしています。なお、今回は幼児森林体験を始めるために必要な初期整備をモデル的に行ったもので、今後の利用に伴い利用者とともに整備を進めていく「発展型」フィールドであることが特徴となっています。

葉っぱの広場

落葉広葉樹の森で、葉っぱを集めた「葉っぱプール」があります。たくさんの葉っぱに触れることで、自然への親しみを持ち、大切にできる気持ちを育てます。また、葉っぱの下の土などを触ることで、森の循環の仕組みを学びます。



森のこみち

活動エリアを周遊できる歩道です。保護者が幼児の活動の様子を見守ることができ、将来的には車椅子でも通行できるように整備していきます。



ムササビの道

木と木を結んだロープを渡る空中廊下です。ムササビのように森を眺めることができます。幼児のバランス感覚が養われます。



森のかくれ家

森で集めた木材などでつくった目かくしがあり、幼児が隠れ家や秘密基地として利用することで、独立心や計画性などが養われます。



森のすべり台

森の斜面を利用した葉っぱのすべり台です。どうしたらうまくすべることができるか考えたり、試したりして工夫して遊びます。



ものづくりの森

森から集めてきた材料(丸太、枝、葉)を使って自由に工作や基地づくりなどを行う森です。「大きな積み木」など素材の手ざわりを感じることができるとともに、幼児の豊かな感性や表現する力が養われます。



材料さがしの森

(将来の活動エリア)
森の中での創作に使う材料を集める森です。今後、利用者の人たちと一緒に活動エリアとしての使い方を考えていきます。



みんなの集まる広場

幼児が集まって、朝や帰りのあいさつ、本の読み聞かせ、お遊戯などを行う活動の中心となる広場です。



いたわりの森

安全すべきスズカカンアオイが見られます。踏み荒らしを防ぐため中には入れませんが、外から観察できるようにしています。



森のお城

センターや森の外の景色を見渡せる丘です。周辺の住宅地や田畑が見えることで、自分たちの暮らしとの結びつきを感じることができます。2本の大きなヒノキがあります。

